（資料４－３）

タイトル	我が国の救急医療体制と 病院前医療体制の概要	消防機関における救急業務及び救急救命士制度に対する理解	MCの基本と運用の理解	救急救命士が実施する救命処置	WS：オンラインMC	MCに関わる関連法規に対する理解	WS：事後検証、症例検討会の方法論	WS：救急救命士等に対する教育	WS：MC及び指導医の今後の展開	局所災害時のMC
講師	細川先生　22枚	森川先生　82枚	三宅先生　50枚	田邊先生　O枚（レジュメと設	森村先生　14枚	西田先生　52枚	北村先生　65枚	尾方先生 44枚	溝端先生　26枚	勝見先生　59枚
テーマ	救急業務の対象と応急処置 救急病院等を定める省令 救急救命士法と応急処置の拡大 救急隊の編成 消防法の改正 協議会の組織と実施基準 MC体制の確保 MC協議会の役割 医療法における医療計画の位置づけ 救急医療体制と救急医療の充実 MCにおける、今後検討すべき事案	消防組織の概要 消防の階級 広域消防応援と緊急消防援助隊 熊本地震における消防活動 緊急消防援助隊 救急業務の基本的情報 救急隊の定義 救急業務と救急救命士 特定行為 救急救命処置拡大 消防のMC体制（コア） 処置拡大とMC 救命士免許取得まで 救命士教育 指導救命士 救急業務の課題 緊急度判定 消防職員教育 救急科医師の役割 資料（救急業務あり方検討会）	MCの定義 応急処置と救急救命処置の違い（包括指示と具体的指示） 救急救命士制度法制化以降の歩み MCの構成要素 低血糖になった糖尿病傷病者へのブドウ糖の投与について PSLSのアルゴリズム 救急搬送における緊急度判 事後検証基準の例 救命救急センターにおける精神科診療の現状と課題 地域高齢者搬送システム メディカルコントロール強化事業 MC体制について	救急救命処置 特定行為 新しい救急救命処置 医師の直接指示	PDCAサイクルによるプロセスの評価 対象・体制・記録の方法の策定 実例から課題を考える コミュニケーション オンラインMCにおける情報伝達の留意点 オンラインMC	法規の構造 憲法と法律の関係 法律と命令の関係 命令と告示の関係 救急救命士法の構造 救急救命処置の位置づけ 医師法 保助看法 医行為と診療の補助の関係 医療にまつわる法的責任	心肺機能停止プロトコル 除細動薬剤投与プロトコル CPA搬送例の事後検証における検証項目 心停止前血糖測定プロトコル 心停止前輸液プロトコル 検証会例 事例	救急救命士養成施設の種類 救急救命士法第34条第4号が定める消防機関関連施設の入所資格 救急救命士学校養成所指定規則が定める消防機関関連養成所の履修単位 消防機関関連施設の養成課程 消防職員としての救急救命士 救急救命士の職務 救急救命士が行う救急救命処 救急救命士の制約1 救急救命士の制約2 これまでの救急隊員教育 これまでの救急救命士 これからの救急救命士教育1 これからの救急救命士教育2 これからの救急救命士教育まとめ これからの救急救命士教育3 医師が行う救急救命士教育のあり方 標準アルゴリズムを用いたシミュレーショントレーニング PEMEC ハイリスク傷病者 通信指令員によるハイリスク傷病者の判断 ハイリスク傷病者と判断する例 内因性ロード＆ゴー 医師が行う救急救命士教育のまとめ、医師がコーディネートすべき、その他の事項	目標 MCのコア業務 問題の共有 解決の優先順位 作業の進め方 解決法の提案 コア業務における展開 地域の救急搬送・医療における展開	災害の種類 我が国の災害医療の取組 阪神淡路大震災以降の災害医療整備 局地災害 実例報告 災害医療の標準化 MCLS まとめ
必要項目	国レベルの救急医療体制について	国レベルの消防業務について		救命処置に関する事項						
考察	基本的に配布目的に作られたポンチ絵で構成されているため、スライドがビジー。GIO,SBOの設定はなし。要点を絞るか、記載内容の簡素化が必要と思われる。	アウトラインは書かれているが、GIO,SBOの設定はなし。基本的に配布目的に作られたポンチ絵で構成されているため、スライドがビジー。要点を絞るか、記載内容の簡素化が必要と思われる。	GIO、SBOの設定なし。ほぼ地域での取り組みの話。まずはSBOに書かれているMCの目的、体制、コア業務、地域のMC体制を説明した上で、地域での取り組みや緊急度判定等の各論の内容を説明することが望まれる。	GIO、SBOの設定なし。レジュメと救急救命処置の設問だけの為詳細が不明。基本的な内容については、スライドで示したほうが指導内容に差が出なくてよいと思われる。ただし、実際に救急救命処置が何か問う設問については、SBOの到達確認の観点からも今後導入を検討する余地がある。	GIO、SBOの設定なく、スライドについてもオンラインMC中心に構成されているため、オフラインMCの内容を盛り込む必要あり。ただし実例に沿った形でテーブルディスカッションを実施しており、WSとしては議論しやすいと思われる。	GIO、SBOの設定はないが、法令・通知の解釈等をわかりやすくスライドで説明されている。しかし、SBOに含まれている「メディカルコントロール体制における法的責任について説明できる」に該当する部分はなく追加されることが望まれる。	どのようにグループワークを行ったかわからずSBOの達成、キーワードの収載は憶測の域をでないが、ファシリテーターに対してSBOやキーワードを示す書面がついており、間接的には網羅されていると考える。実例を用いたWSは受講生にとってもわかりやすく引き続き実施されることが望まれる。	GIO,SBO,キーワードについては明確に示されている。ELSTAの先生なので救命士教育についてわかりやすく説明されているところはよいが、後半の部分（PEMEC,内因性ロード＆ゴー等についてはどこまでコンセンサスが得られた内容か判断できないため、紹介にとどめる程度であることが望まれる。	どのようなグループワークを行ったかは不明であるが、GIO,SBO,は明確に示されると共に、目標や進め方について説明されているので共通の議論が可能となる。このような進め方でWSが実施されることが望まれる。	GIO、SBOの設定なし。我が国の災害医療体制については触れられているが、基本的には同先生の経験や経験、MCLSの内容でまとめられている。GIO、SBO、キーワードに沿った内容に修正されることが望まれる。
SBOの達成	B	A	A	A	B	B	A？	A	A	C
キーワードの収載	B	B	B	B	A	A	A？	A	A	C
SBO	救急医療体制について説明できる 救急医療の現状について説明できる 救急医療体制の歴史と現状について説明できる 病院前医療における医師の関与について説明できる	消防組織と救急業務について説明できる 救急出動体制について説明できる 通信指令システムについて説明できる	MCの目的を説明できる MC体制を説明できる（不明確） MCのコア業務を説明できる 地域のMC体制について説明できる	救急隊員が行う処置について説明できる 救急救命処置について説明できる 特定行為について説明できる	オンラインMCとオフラインMCの違いを説明できる（オフラインの説明については不明） オンラインMC時の注意点を説明できる 情報伝達における注意点を説明できる オンラインMCを実施できる オンラインMC体制の現状について述べることができる	法の構造について説明できる 救急救命処置の法的位置づけについて説明できる 医療にかかわる法的責任について説明できる メディカルコントロール体制における法的責任について説明できる	事後検証の方法論を説明できる 検証医師に求められる知識について説明できる 事後検証を実施できる 事後検証、検証会議の現状について述べることができる	救急救命士の養成課程教育・再教育について説明できる 救急業務に関する生涯教育について説明できる 救急救命士教育の現状について説明できる 救急救命士の病院実習について議論できる	MCの現状と課題について議論できる MC医師として今後の活動について議論できる 医師のMC研修について議論できる	現場医師派遣システムについて説明できる 出動現場での消防と医師の連携について説明できる 災害時の消防と医療の体制について説明できる 災害時と平時のMCの相違点を説明できる（災害時におけるMCの課題を説明できる） 局地災害への計画、現場対応、検証、教育・訓練について説明できる
キーワード	救急医療体制 医療圏 初期・二次・三次救急医療機 ドクターカー・ドクターヘリ 救急救命士 病院前救護体制のあり方に関する検討会	消防組織 救急業務 救急隊・救急救命士・指令員 救急隊の編成 出動件数・搬送時間 通信指令 口頭指導 電話による緊急度判断 緊急度に応じた救急出動	病院前医療 メディカルコントロール協議会の説明なし 救急救命処置 プロトコル 指示 指導・助言 検証 教育	応急処置の記載なし 救急救命処置 特定行為 救急活動記録 具体的指示 包括的指示	オンラインMC オフラインMC説明なし。 プロトコル 特定行為 指示要請 処置時間 処置現場 オンラインMC記録 包括的指示・具体的指示 情報伝達	法規の構造 救急救命士法 法律 命令（政令・府省令） 告示 医行為・診療の補助 刑事上の責任 民事上の責任 行政上の責任	プロトコル 検証の標準化 救急活動記録 一次検証・二次検証・三次検 フィードバック 検証医師	養成課程 就業前病院実習 再教育病院実習 救急救命技術研修会 症例検討会 128時間 生涯教育の指針 指導救命士	MCの現状 MCの課題 MC医師 MC医師研修 救急科専門医	ドクターカー ドクターヘリ 災害時消防体制 DMAT 指揮命令 トリアージ 現場処置 搬送先選定 事後検証 災害対応計画
まとめ	GIO,SBO、キーワードが示されたことにより、昨年度まで見られたスライドの重複はだいぶなくなったと思われる。一方、スライドの書式・内容やWSの進め方などには担当者間で統一されたものがなく、当日説明を聞く受講生にとっては分かりにくいとも思われる。その他にも、SBO,キーワードから離れて担当者の地域や得意分野の説明がスライドに多く反映されており、どこまで容認するかの議論が必要と思われる。また局地災害については、過去の経験例の域を脱しておらず、先進的な取り組みを実施している地域の先生に担当していただくなどの工夫が必要と思われる。									

A・B・Cの3段階評価（A：十分、B：やや不十分、C：不十

A・B・Cの3段階評価（A：十分、B：やや不十分、C：不十

A・B・Cの3段階評価（A：十分、B：やや不十分、C：不十分）

A・B・Cの3段階評価（A：十分、B：やや不十分、C：不十分）